

平成 28 年 8 月 1 日

第二回神奈川県小型生コンクリート協同組合・技術交流会報告書

1. 日 時：平成 28 年 7 月 29 日（金）12 時 45 分～17 時
2. 場 所：GCP ケミカルズ株式会社・厚木工場
3. 主 催：神奈川県小型生コンクリート協同組合・技術交流会
*参加者：別添名簿参照
岩城技術部長（GCP ケミカル(株)）、西村技術顧問（GCP ケミカル(株)）
中村雅宏・東京営業所（GCP ケミカル(株)）
仲田昌弘（新東産業(株)）、加藤郷典（新東産業(株)）、小松純子（新東産業(株)）

4. 内 容：

4-1. スラッジの有効利用

GCP ケミカルズ(株)社・リカバーシステム（スラッジ水の有効利用方法）

GCP ケミカルズ(株)社、西村技術顧問より、当該システムの概要（メカニズム、利用方法 JIS との関係等）について講義を受ける。

呼び強度 24-18-20-N の代表的配合について

1-1.清水コンクリート

1-2.スラッジ水コンクリート（スラッジ固形分率 6%：セメント量）

1-3.リカバー処理スラッジ水コンクリート（スラッジ固形分率 6%：セメント量）

*スラッジ水は、前日より準備（濃度調整及びリカバー添加）したものを使用

リカバーシステムの効用を実体験する。フレッシュコンクリートの性状改善やスラッジ水の有効利用を理解する。（試験結果参照）

4-2. 暑中コンクリート対策

20℃のコンクリートと 30℃のコンクリートの温度の影響を検証し、高機能 AE 減水剤を用いて改善を図る。

3-1.コンクリート温度 30℃・AE 減水剤標準形

3-2.コンクリート温度 30℃・高機能 AE 減水剤遅延形

前日より 35℃に調整された材料を用い、温度 31℃のコンクリートを練る。20℃のコンクリートの差を確認。また、高機能 AE 減水剤（ダラセム MR・GCP ケミカルズ社製）を用いて改善（単位水量同じで目標スランプ、スランプロス抑制）を実感する。（試験結果参

照)

4-3. 戻りコンクリート用団粒化材試験

AGGROMA（戻りコンクリートを積載したアジテータ車内に少量添加することで戻りコンクリートを素早く団粒化し、骨材として再利用することを目的としてアクリル酸系高分子ポリマー）を用いて、3-2で練ったコンクリートを団粒化する。

10ℓのコンクリートを傾胴ミキサ内で AGGROMA を 8g（200 g /0.25m³：標準添加量）をふりかけ、2分半練り混ぜ排出する。（試験結果参照）

4-4. 特殊コンクリート（高強度：160N/mm²）

高強度用混和材（デンカΣ2000）を用いて、W/B比（水/結合材比）：20%の高強度コンクリートを試験練りする。普通コンクリートとの違いを体感する。（試験結果参照）

4-5. 技術会まとめ

技術交流会の内容を整理しまとめる。

- ・参加者に感想等意見を述べて頂く。

内容それぞれに高い関心を抱いた。会社に戻り、役立てたいと…。

今回の全員参加形のワークショップはとても有意義であった。

- ・第三回技術交流会は、「JISについて：講演者・日総試」を平成29年1月中旬に予定の旨、幹事からの案内があった。

ご協力頂いた GCP ケミカルズ(株)諸氏にあらためてお礼を述べ、記念撮影をして散会した。



GCPケミカルズ(株)にて参加者集合写真